

山形県連小 会 報

第 145 号

発行日 平成28年 5 月31日

発行者 山形県連合小学校長会

田 中 利 幸

山形市木の実町12-37

県教育会館(大手門パルズ)

県連小 第1回理事会報告

共に学び合い 経営力を高める校長会に

今年度第1回目の理事会が4月22日(金)、大手門パルズで開催されました。新年度の方針、組織、運営について活発な協議がなされました。本号では、新会長、新副会長のご挨拶、理事研修会の内容、県教育委員会からの御指導等についてお知らせいたします。

田中利幸新会長あいさつ



高木祐治前会長には、会員数の減少を受け、多忙化の軽減と予算確保を視野に、会議のスリム化など運用面の見直しを行っていただきました。後任者として役割の重さを十分認識し、精一杯努めますので、よろしくお願いいたします。

山形県連合小学校長会は、山形県内各市町村、また県内11地区に組織されている各地区校長会の連合体として存在しており、それぞれに伝統や文化、受け継いでおられる考え方があります。会員の減少が進む中、その違いをよさとして考えを出し合い、力を合わせていくことが、各学校経営の充実と県の小学校教育の振興につながるものと考えます。

昨年12月、中教審は「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」と題する答申を提出し、「教員は学校で育つ」との考えの下、「学び続ける教員像」を掲げています。学習指導要領の改訂など新たな教育課題に対応してのリーダーシップやマネジメント力を磨くためには、私たち校長も学び続けなければなりません。自らの意志で研鑽を積むために集い、情報交換を通して進むべき方向性を探る。「校長は県連小で育つ」と言えるよう、学び続ける校長を支える県連小でありたいと考えています。そこで、今年度の県連小の課題を3点申し上げます。

1点目は、専門委員会を中核とした活動の充実です。「喫緊の課題への組織的な対応力」と「発信する県連小」を目指しての組織改編を受け、対策、研修、生徒指導という新たな枠組みでスタートしました。新しい方針での調査研究の委託を受け、生徒指導委員会が行ってくださったネット接続機器使用についての提言をどう浸透していくかなど、取り組むべきことを取捨選択し、それぞれの専門委員会活動の充実を図ることが、課題であると考えます。

2点目は、来年度開催する第57回東北連小研究協議会山形大会に向けた準備です。2年前に県実行委員会を立ち上げ、山形地区、上山地区、東村山地区を主管地区として準備を進めてきました。昨年度は、担当各地区の代表者から成る事務局会を6回開催し、年度途中からより小回りの利く組織として正副部長会を立ち上げました。特に天童地区の校長先生方はじめ研究部の方々が、各分科会の趣旨文を何度も見直し充実したものにしてくださいました。いよいよ、開催まであと1年となりましたので、運営面の準備はもとより、各地区におかれまして、各分科会での研究発表への準備も、よろしくお願いいたします。

3点目は、第70回県連小研究協議会の充実です。今年度は、西置賜地区が主管くださり、16名という少ない会員数で準備を進めてくださっています。学び続ける機会の大切さを認識し研修を深めることが、担当くださっている地区の方々の労苦に報いる、最大の成果だと考えます。

課題解決に向け県連小という組織の凝集性を高められるよう、各地区校長会と会員の校長先生方のご理解とご協力をお願い申し上げ、挨拶いたします。



新副会長あいさつ



責任の自覚と遂行の意志

副会長 黒木 佳 昭

全連小山形大会から6年の時を経て、来年は本県に東北大会が戻ってきます。主管3地区（山形・上山・東村山）の1つとしてその準備に万全を期すべく思いを新たにしたい頃、熊本激震の報に触れました。思い起こせば5年前の山形大会はまさしく、東日本大震災発災直後の大会でした。そして、開催も危ぶまれた中、先達たちは見事、難局を乗り越え、「東北は1つ」をスローガンに終わらすことなく、「つながり」という言葉の下で「誇りと志」を奮い立たせ、共に夢に向かう大会を創り上げました。

「東日本」以来、日本列島はそれまでとは異なる時代を生きていることを余儀なくされているのだと思います。そして、私たち各単位学校を預かる校長には、大災害と向きあう覚悟が求められているのだと思っています。当然のことながら、必要とされる教育の在り方も異なってきているのではないのでしょうか。

そうした時代だからこそ、「いのちの教育」を主要施策の筆頭に掲げる6教振のベクトルに組織力を結集して沿いつつ、一方では、現場と乖離した指示指導があれば、本県小学校教育の充実発展に資するために、時機を失することのないように、進言すべきは進言しなければならないと考えます。

微力ながら、田中会長を支え、連合体としての組織力が発揮できるよう努めて参ります。



議論し提言する校長会

副会長 長 濱 洋 美

東北連小山形大会を次年度に控え、大役をいただき責任の重さを痛感しております。微力ですが、本会発展のため田中会長のもと、全力で努めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、現場には四方八方から逆風が吹き荒び、視界が効かずに本来の目的地を見失ってしまいかねない状況があります。「数値」や「評価」だけに眼を奪われる教育は本当の教育なのか、「受け」だけが良く、誰かに都合のよいことばかりを求めることが

本物の教育なのか、日々悶々としてしまいます。

もちろん公教育を行う上で“数字を上げる”ことや最大限の“成果”を残すこと、変革に主体的に“対応”することは、必要かつ重要なことであり、校長は責任を持ち取り組まなくてはなりません。

このように困難を極める時代だからこそ、県連小の諸先輩が築き上げてこられた「山形の教育」という目的地を再確認し、しっかり地に脚を着け、温もりのある教育を一步一步推進していくことが私たちの役割だと考えます。

校長は教育現場の実践者であり経営者です。未来の宝である子どもたちと、身を粉にして学校を支えている教職員を守っていかなくてはなりません。今こそ、校長が自らの実践をもとに互いに議論し、英知を結集し発信する時です。校長会の、現実を踏まえた提言で、逆風も乗り越えられると確信します。



最大限に生かす

副会長 松 本 克 則

副会長を拝命し、改めて身の引き締まる思いがいたします。山形県連合小学校長会の意義を確認しながら、微力ではありますが、精一杯努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

さて、今年はりオデジャネイロオリンピック・パラリンピック開催の年であり、日本選手や山形県出身選手の活躍も楽しみなところですよ。

近年私は、人口減少、児童数・学校数の減少という言葉を耳にするたびに、以前目にしたことのあるパラリンピックの基本理念が思い出されるのでした。「失われたものを数えるな。残されたものを最大限に生かせ。」改めて調べてみたところ、ルートヴィヒ・グットマン博士の言葉でした。

この言葉を単純に学校の現状に当てはめるわけにはいきません。しかしながら、可能性を求め、前向きに挑戦していくときの考え方のひとつになると思っています。

今ある学校を、今いる先生方を、そして今いる子ども達を最大限に生かすことができれば、様々な課題も乗り越えられる気がします。その課題が、各校独自のものであれ、国の施策等への対応であれ。

各校の前向きな“最大限”の実践が各地区校長会で語られ、研究協議会などでさらに広く交流されることで、私たち校長の力量がより高まることを願って歩みを進めていきたいと思ひます。

県教育委員会指導

(1) 佐藤 昌彦 学校教育課長補佐より

- ① 少人数学級編制によるきめ細かな指導の充実
 - 重点強化指導員→教育マイスター制度の導入
- ② 確かな学力の育成
 - 教育山形「さんさん」プラン
 - 山形県学力向上プロジェクト
 - ・今年度も各学校を訪問する予定
 - 探究型学習の推進
 - ・山形県学力調査の実施
 - 5月上旬までには発出の予定
 - グローバル化に対応した英語教育推進
 - ・高学年で年間70時間の実施を予定
 - ・山形県英語教育改善プラン
- ③ かけがえのない「いのち」の教育の推進
 - 道徳教育推進事業 県内2校 万世小 明倫中
 - 人権教育研究指定校事業 県内2校 余三小 余目中
- ④ チーム学校による相談体制の充実強化
 - 未然防止により重点を置いた指導を
 - 不登校重大事態に係る調査の指針
 - チーム学校生徒支援体制整備事業
 - ・家庭環境支援のためのSSW
各事務所に8名配置（経験者）
- ⑤ ICT教育環境の整備
 - 学校へのタブレットPC導入等の補助
 - PTAのネットモラル講習の活用を
- ⑥ 義務教育学校について
 - 全国22校 萩野学園を含む
 - ・中1プロブレムへの対応も期待

(2) 新野 彰 教職員室長より

- ① 新制度による「県教育委員会」
 - ・県知事（議会）と教育委員会の連携強化
- ② 「服務規律の徹底」
 - ・「アンガーマネジメント」の大切さ
 - ・追突事故は人身事故と想定して対応
 - ・管理職には「結果責任」が問われる
 - ・USBの管理徹底を
 - ・教科書問題ではどのような事態になるかを想像する必要があった
- ③ 「優秀な人材の確保」
 - ・女性管理職を増やす（女性活躍推進法）
- ④ 「教員の多忙化の解消」
 - ・時間外勤務が増えている
- ⑤ 人事管理上の諸課題
 - ・大量退職への対応
「講師等特別選考」「現職教員特別選考」の拡大
 - ・再任用者の確保（人数と資質）
 - ・事務職員採用試験の志願者増に向けた取り組み
 - ・「県教職員中長期経験者研修」の実施（昇給への根拠）
 - ・評価者研修 より教職現場に即した形で
 - ・障害者である職員への合理的配慮の提供
 - ・出退勤時刻表へのありのままの記入を（実態把握のため）
 - ・小学校の病気休暇者が増えている
 - ・新採教職員の精神疾患も増加（育てる視点を）



平成28年度いじめの防止等に向けた取組

山形県教育委員会

重点1

未然防止・早期発見のアンテナ強化

- ☆児童生徒の主体的な活動の一層の推進
 - ・児童会・生徒会活動の活性化による自浄力の育成と児童生徒自らが地域へ発信したり、はたらきかける仕掛けの工夫
- ☆道徳教育を中心とした人権教育の推進
 - ・山形県人権教育推進方針への理解とリーフレットの活用
- ☆情報モラル教育の推進
 - ・PTAとの連携による取組の推進

重点2

実態把握・適切な対応の強化

- ☆部活動（クラブ活動等）におけるいじめへの対応
 - ・未然防止、早期発見、適切な対応に向けた体制整備
 - ・家庭や地域（外部指導者等）との連携強化
- ☆いじめ解消に向けた指導の在り方
 - ・加害児童生徒の心に響く指導と対応、支援
 - ・関係保護者が納得できる学校とのつながりをつくり出す対応

重点3

機能する組織体制の強化

- ☆PDCAサイクルの確立
 - ・基本方針の点検・評価・改善のサイクル確立と実効的な取組の推進
 - ・アンケートやチェックリスト、面談結果の整理と共有、組織的な活用
- ☆市町村教育委員会の体制整備への支援
 - ・重大事態発生時の体制整備の促進
 - ・いじめの防止等に向けた取組への支援

調査に関すること

- (1) 定期調査・問題行動等調査による報告（1～3期、年度末）
 - ・いじめの認知状況・解消状況・発見のきっかけ・態様等の把握
 - ・調査結果を受けた各学校におけるいじめ対策への評価
- (2) いじめ発見調査アンケートと面談の実施（6・11月）
 - ・チェックリストや保護者アンケートも活用した積極的ないじめの認知
 - ・いじめの認知能力の向上、いじめ問題への的確な対応
- (3) 各市町村教育委員会における基本方針策定・組織の設置状況調査
 - ・いじめ問題への組織的な対応への支援、指導・助言



施策に関すること

- (1) いじめのない学校づくり推進事業
 - ※県内の全小中学校において「いじめのない学校づくり運動」を展開
 - ① いじめ防止連絡協議会の開催（県教育センター・4教育事務所で開催）
 - ・研修成果を各校における校内研修で普及
 - ② いじめ問題対策推進事業（4市町村へ調査研究委託）
 - ③ スーパーバイザーの派遣（小中学校15校へ2回ずつ）
- (2) いじめ解決支援チームの設置（4教育事務所）
 - ・青少年指導担当・エリアSSWによる未然防止、重大事案への対応
- (3) 「いじめ防止対策支援プログラム」の普及と活用（県教育センター）
- (4) 県PTA連合会による、山形方式「ネットモラル講習会」カリキュラムへの支援

会議に関すること

- (1) 教育事務所等生徒指導担当者会（年4回）
 - ・いじめの認知状況、解消状況、態様等の分析
 - ・適切な対応、開かれた体制等の情報収集
 - ・外部専門家（SC、SSW等）や関係機関との連携
- (2) いじめ問題対策推進事業全県連絡協議会（年2回）
 - ・4つの課題解消に向けた調査研究の推進
 - ・各指定地域における取組の強化と成果の普及



- (3) 山形県いじめ問題審議会（年2回）
 - ・いじめの実態に関する考察と施策の効果検証

- (4) 山形県いじめ問題対策連絡協議会（年1回）
 - ・効果的な施策の実施に向けた関係機関等の連携強化



理事会研修より

テーマ

「通常の学級に在籍する特別な配慮を要する児童への支援状況と課題」

理事研修会議議長 菊地宏哉副会長

平成25年 6 月に障害者差別解消法が公布され、本県でも第 2 次山形県特別支援教育推進プランを策定し、インクルーシブ教育の考え方を踏まえた特別支援教育を推進している。

現在、学校では、通常学級に在籍する特別な配慮を要する児童に係るトラブルや、それが、いじめや生徒指導に係る事案の発生につながるケースが見られる。そこで、そうした児童への支援状況や課題、対応策などについて情報交換を行った。

話題提供(東南村山地区 青柳由起子理事(天童市立山口小学校))
(提供のポイント)天童市子育て支援課・天童市教育委員会の取組

- ① 幼児施設への巡回相談と、5 歳児検診の実施により、市の担当者が状況を把握することで、早期の見極めと支援を開始する。
- ② 必要に応じて市の教育委員会も加わり、就学時検診までにファイルを作成する。
- ③ 各校の状況を踏まえ、必要に応じて、支援員を配置し、特別な支援を要する子どもへの支援を行う。
- ④ 各学校に 2 回、専門家チームによる巡回相談を行い、子どもの状況の見取りや親との面談を実施している。(大学教授・病院医師)
- ⑤ 教員の特別支援教育力向上のための研修を、年間16 回(初級・中級各 8 回)実施している。(誰でも受講可能)

〈課題として〉

- ① 教師の力量アップ
 - ・一人一人の教員が、ユニバーサルデザインの授業力をつけること。
 - ・適切な支援方法を助言できる専門性をもつ特別支援コーディネーターを育成すること。
 - ・個別の支援計画や指導計画を立てて活用すること。
- ② 保護者との合意形成
 - ・医療受診や障害を認めることへの拒否感があり、薬を

服用することへの合意形成を得ることが難しい。

- ・特別支援学級への偏見があり、子どもの将来に立った見方がなかなかできない。
- ③ 居場所の確保と学力の保障
 - ・取り出し指導ができる支援員の確保と、クールダウンや居場所の確保。

〈情報交換〉

Q 保護者の理解を得ることの難しさを感じている。5 歳児検診のきっかけは？

- ・横山浩之医師のアドバイスによるところが大きい。
- ・5 歳児検診は一昨年度から実施し、認可保育園まで広がっている。

Q 医師会の協力は得ているのか？

- ・横山浩之医師が担っており、医師会の協力は特には無い。

Q 行政・医療機関・学校がうまく連携している。特別支援教育力をつけるための養成システムについて、詳しく教えてほしい。

- ・特別支援コーディネーター養成のための研修会を実施し、スペシャル、スーパーという資格段階を設けて、他の教員の指導ができるようにしている。
- ・市の資格を持った人が指導し、講習がポイント制になっている。
- ・上級カウンセラーの資格をもった人と同じような力量の人材を育てることをめざしている。
- ・研修への参加を支援するための、学校体制もできつつある。

Q 保護者対応のポイントは？

- ・市の専門家チームが児童館等に出向いて検診しており、保護者自身が悩んでいる場合は、継続的なペアレントトレーニングも行っている。
- ・本児にとって何が望ましいのかの視点で、ぶれないで寄り添うことが大切であり、定期的な話し合いの場を設けていく。

情報交換を通して、「5 歳児検診」や「特別支援コーディネーター養成システム」など、天童市のような取組を、県内すべての市町村で実施できるよう、県連小として一丸となってお願ひしていきたいという感想が多く出された。

平成28年度
山形県連合
小学校長会
役員一覧

会 長
田中 利幸 (山形四)

副会長
黒木 佳昭 (山形八)
菊地 宏哉 (寒河江)
高野 博 (新 庄)
長濱 洋美 (赤 湯)
松本 克則 (琢 成)

監 事
岡村 廣 (上山南)
國井由紀子 (津 山)
森山 仁 (鶴 子)

事務局長
後藤 一昭

地区	役名	理 事 (◎地区代表)	対 策 委 員	生徒指導委員	研 修 委 員
山 形		黒木 佳昭 (山形八)	加藤 昌宏 (蔵王二)	渡辺 修 (桜 田)	村上 宏幸 (みはらしの丘)
上 山		吉田 康之 (宮 川)	丹野 芳弘 (上 山)	藤原 由美 (中 川)	須田 浩二 (西郷一)
東村山		青柳由起子 (山 口)	大谷 敦司 (天童南部)	柏倉 充 (干 布)	四釜 禎 (蔵 増)
西村山		菊地 宏哉 (寒河江)	伊藤 順一 (左 沢)	村上 雄一 (柴 橋)	渡辺 聡 (三 泉)
北村山		細梅 雅弘 (楯 岡)	榎本 慎一 (大 森)	横尾 祐一 (玉 野)	青沼 敦子 (富 本)
最 上		高野 博 (新 庄)	八 嶽 利夫 (有 屋)	門脇 潤 (真室川北部)	笠原 正三 (大 蔵)
米 沢		遠藤 誠 (東 部)	山崎 公彦 (窪 田)	大池 清人 (万 世)	情野 正 (上 郷)
東置賜		長濱 洋美 (赤 湯)	青山 雄二 (玉 庭)	山口 義宏 (中 郡)	淀野 秀樹 (梨 郷)
西置賜		遠藤 倫夫 (長 井)	舟山 良美 (西 根)	向田 聡 (鮎 貝)	竹田 俊章 (手ノ子)
田 川		本田 淳 (朝陽一)	岡崎 津 (黄 金)	阿部 真一 (余目三)	五十嵐芳昭 (鼠ヶ関)
飽 海		松本 克則 (琢 成)	大谷 智之 (亀ヶ崎)	阿彦 裕光 (宮野浦)	菅原慎一郎 (一 條)
担当理事				細梅 雅弘 (楯 岡)	青柳由起子 (山 口)
幹 事	幹事長 高橋 禎 (山形一)	日高 伸哉 (山附小)	遠藤 光男 (出 羽)	田所 昭裕 (明 治)	
	会 計 大沼 篤 (楯 山)	瀧浪 敦 (南山形)	大沼 篤 (楯 山)	小松 和彦 (東 沢)	